令和5年度
障害者スポーツ推進プロジェクト
（特別支援学校等における運動部活動の
地域連携・地域移行支援事業）

報告書概要

宮崎県
（教育庁スポーツ振興課）

目的

県民が気軽にスポーツに参画し、スポーツの価値を体感できるよう、総合型地域スポーツクラブにおけるスポーツ提供体制の充実や、新たなスポーツメニューによる教室の開催等により、性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等、それぞれが置かれた状況に応じてスポーツを楽しむことができる環境を整備することで、スポーツによる共生社会の実現を目指す。

事業内容

1　スポーツ提供体制整備

連携・協働体制の構築 ➡

① 実行委員会を組織

（構成団体）

南九州大学、県障がい者スポーツ協会、県スポーツ協会、県身体障害者団体連合会、障がい当事者、スポーツトレーナー、県総合型地域スポーツ、クラブ連絡協議会、特別支援学校、市町村行政、県行政（教育委員会、福祉保健部）

② 障がい者スポーツの実施状況調査

○ 特別支援学校　○ 県総合型地域スポーツクラブ　○市町村（教育委員会、福祉課）

2　研修会及びスポーツ教室の実施

スポーツ提供体制の充実 ➡

① 共生社会の実現に向けたスポーツ研修会

（実施主体）宮崎県教育委員会

○ パラスポーツサポート研修会の開催

○ パラスポーツ指導に係る研修会の開催

② スポーツ教室の実施

（実施主体）総合型地域スポーツクラブ

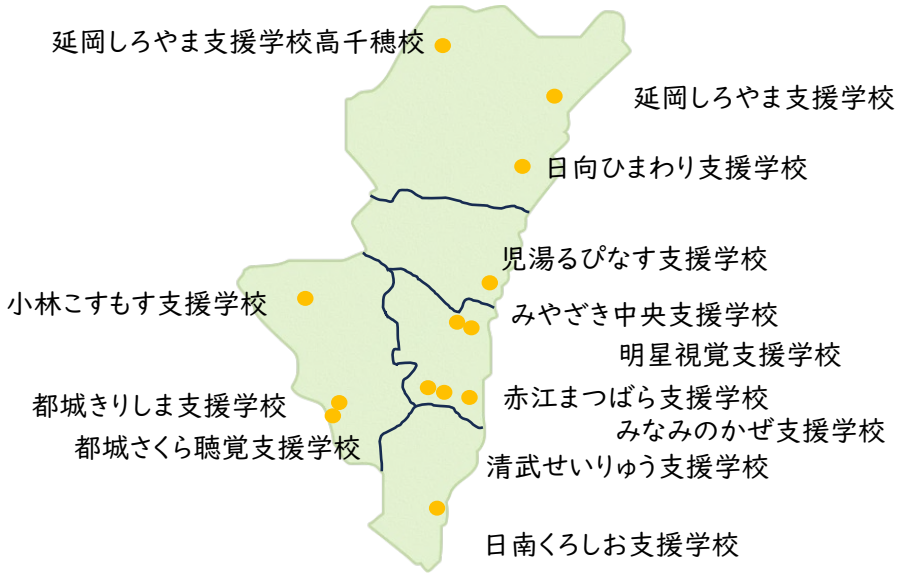
○ 障がい者を対象としたスポーツ教室の実施

○ 障がいのあるなしにかかわらず、だれでも楽しむことができるスポーツ教室の実施

県民誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人と「ともに」スポーツを楽しむ環境を整備

Ⅰ スポーツ提供体制整備

（1）アンケート調査（特別支援学校13校）



（運動部活動の主な活動時間　15時　から　16時まで）

① 運動部活動・同好会等への加入状況

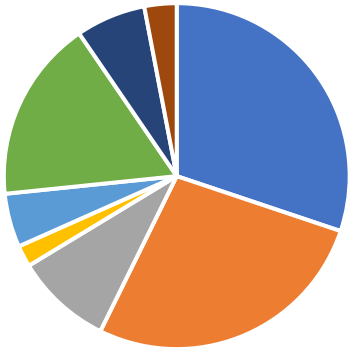
高等部

加入数	生徒数	加入率
153	511	29.9%

中学部

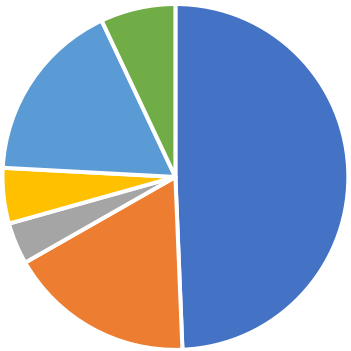
加入数	生徒数	加入率
46	339	13.6%

② 運動部活動・同好会等の種目と部員数



スポーツ（多種目）	60人
陸上	54人
バスケットボール	34人
バドミントン	18人
卓球	13人
サッカー	10人
フライングディスク	6人
太鼓	4人

③ 運動・スポーツを行う場所（部活動以外も含む）



（運動している生徒対象）

学校	51%
放課後等デイサービスなど	19%
家庭	15%
イベント	5%
クラブ・総合型クラブ	4%
その他	6%

④ 運動・スポーツがしたいと思う生徒の割合

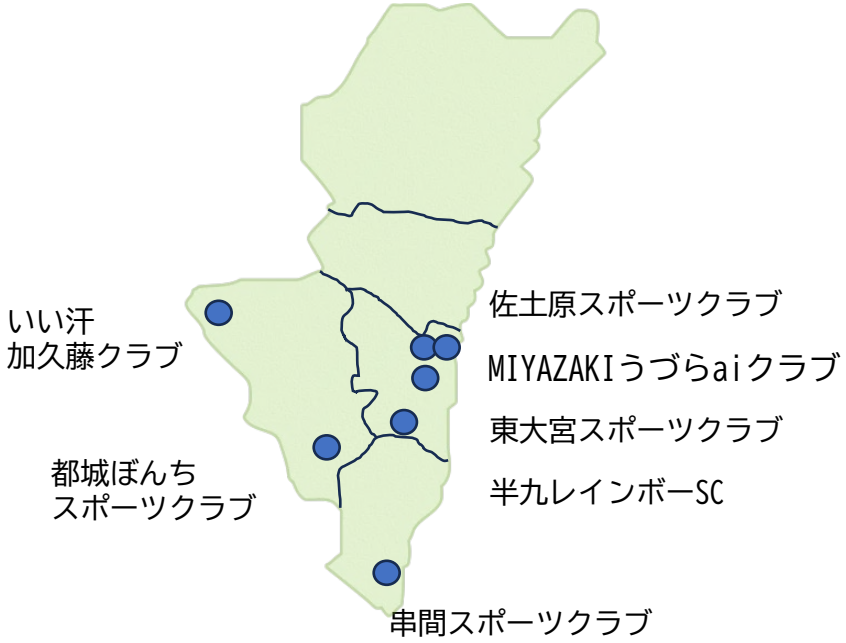
（全生徒対象）

そう思う	48%
そう思わない	13%
分からない	39%

Ⅰ スポーツ提供体制整備

（2）アンケート調査（総合型地域スポーツクラブ、市町村）

		総合型地域スポーツクラブ	市町村
① 定期的に障がいのある人を対象にしたスポーツ教室の実施	⇒	4クラブ	4市町
② 定期的に障がいのあるなしに関わらず参加できるスポーツ教室の実施 （障がいのある人ない人がともに参加しているスポーツ教室）	⇒	7クラブ	4市町
③ 障がいのある人を対象とした年数回の教室の実施	⇒	4クラブ	22市町村



2 研修会及びスポーツ教室の実施

（1）共生社会の実現に向けたスポーツ研修会

パラスポーツサポート研修会
講師：日本福祉大学　兒玉　友　准教授
参加者　51名
内容　・障がいについて
　　・障がい者スポーツ・障スポ大会について
　　・サポート時の留意点
　　・卓球バレー指導場面でのサポート体験

参加者の声
・楽しく指導者初級の復習が出来て良かった。
・もっと障がい者とのコミュニケーションが取れるチャンスを作っていきたい。
・障がい者スポーツについて知ることが出来、興味が湧いた。
・パラスポーツのサポートの仕方が参考になった。
・細かに、シンプルに、というサポートが必要なのだと思った。
・初めての参加だったが講話が素晴らしく、体験型のスポーツも楽しく、勉強になった。
・話を聞くだけでなく、卓球バレーを体験し、楽しめたのが良かった。

パラスポーツ指導者研修会
講師　：筑波大学　澤江　幸則　准教授
参加者：50名
内容　・インクルーシブについて
　　・障がいのある子とともに学ぶ実践について
　　・アダプテッドの実践
　　・ボッチャ指導場面での指導アレンジ体験

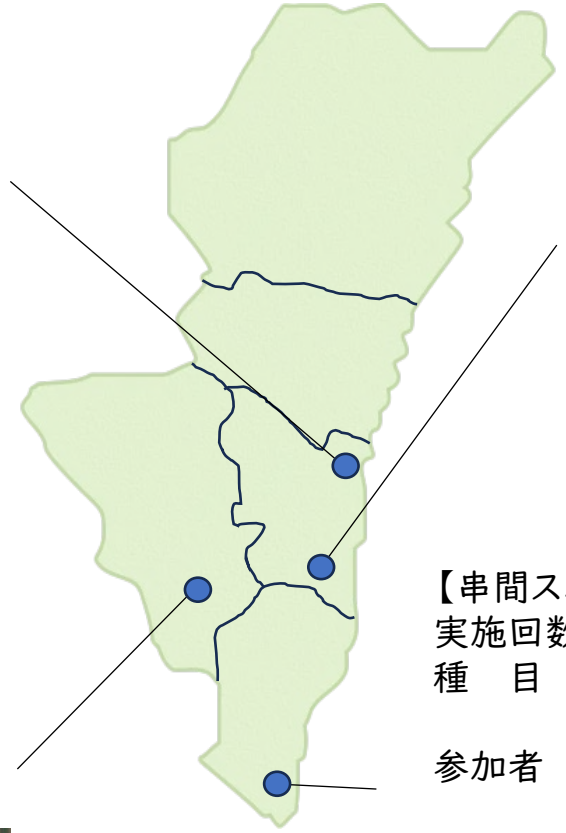
参加者の声
・全ての人が楽しむためには、まず仲間意識、心のアダプテッドが一番大切だと感じた。
・難しく考えず、アイデアを出し合うことで、全ての人を楽しませる事が可能になる、ということを学んだ。
・多様性の中での共生は、人に対する公平で優しい気持ちがあれば可能性が広がる。そういう社会を作ることが一番大事だと思う。
・大切なことは、障がい者とたくさんふれあうこと、やりとりをすることだと伝えていきたい。
・地域に持ち帰って、すぐにでも実践したい。

2 研修会及びスポーツ教室の実施

(2) スポーツ教室の実施

① 障がい者を対象としたスポーツ教室の実施
② 障がいのあるなしにかかわらず、だれでも楽しむことができるスポーツ教室の実施

【佐土原スポーツクラブ】
実施回数：それぞれ月１回程度　計10回
種　　目　：①ドッヂビー、ディスゲッター9、ボッチャなど
　　②バドミントン、卓球、ミニバレーボールなど
参加者　：放課後等デイサービスに通う児童生徒
　　就労支援事業所等に通っている方　など
活動場所：社会福祉施設、地域の交流センターなど



【半九レインボースポーツクラブ】
実施回数：それぞれ月１回程度　計10回
種　　目　：①フライングディスク、ボウリング　など
　　②カヌー、トレッキング　など
参加者：特別支援学校の児童生徒、保護者
　　就労支援事業所等に通っている方　など
活動場所：地域の公園、体育館　など

【都城ぼんちスポーツクラブ】
実施回数：それぞれ月１回程度　計10回
種　　目　：①サッカー、ディスゲッター9、
　　②フライングディスク、ドッヂビー、スカットボール
参加者　：特別支援学校の児童生徒　など
活動場所：特別支援学校、地域の体育館　など

【串間スポーツクラブ】
実施回数：それぞれ月１回程度　計10回
種　　目　：①フライングディスク、ラダーゲッターなど
　　②バドミントン、モルック、サッカーなど
参加者　：放課後等デイサービスに通う児童生徒
　　就労支援事業所等に通っている方
活動場所：地域の総合体育館

成果

○ 実行委員会を組織することで、関係者のネットワークが構築され、各団体の連携体制づくりにつながった。
○ 研修会を実施することで、障がい者スポーツに対する理解が促進され、指導方法を改めて考え直すきっかけになるなど、障がい者スポーツへの意識の高まりが見られた。
○ 参加者にとって取り組みやすいスポーツメニューを総合型地域スポーツクラブが提供したことで、障がいのある人が地域でスポーツに親しむことができた。
○ 総合型地域スポーツクラブが、特別支援学校や社会福祉施設等に出向いてスポーツを提供したことで、障がいのある人のスポーツ活動の場に広がりが見られた。

課題

○ 障がいのある人を対象とした「スポーツイベント」は、県内各地で実施されているが、定期的なスポーツ教室の開催となると活動場所が限られており、地域差もみられる。
○ 活動の場の周知やスポーツに取り組むためのきっかけづくりが必要である。
○ 障がい者スポーツの指導者やサポーターなど人材を育成する必要がある。
○ 障がい者のスポーツ実施に係る費用負担の在り方については、大きな課題があり、次年度以降も継続して研究していく必要がある。
○ 総合型地域スポーツクラブがスポーツを提供するにあたり、移動手段や予算の確保など検討する必要がある。

今後に向けて

○ 県と実行委員会を組織した団体等とが引き続き連携体制を維持することで、域内の特別支援学校の児童生徒及び地域の障がい者がスポーツを楽しむことができるイベントを実施したり、環境を整備したりしていく。

○ 研修会を継続的に実施していくことで、障がい者スポーツの指導者や携わる人材の育成、確保に努めていく。

○ 総合型地域スポーツクラブが特別支援学校や社会福祉施設等と連携し、日常的に障がい者へスポーツを提供できる場を創出していく。

○ 障がいのあるなしにかかわらず一緒にスポーツができる環境を提供していくための移動手段、費用負担の在り方などを研究していく。